

サロマ湖の牡蠣は、生食用としてほとんど1年ものを出荷し、2年以上の牡蠣を地元生産者では「こたろう牡蠣」と呼んでいます。

■ オホーツク圏地域食品加工技術センターの役割

オホーツク圏内で生産された農水産物資源を活用した食品工業の振興や、付加価値を求める加工技術の向上を図るために北海道が設立した施設です。主な開発商品に「オホーツク玉ねぎふりかけ」「きた味おにおんスパイス」「ハバネロピネガー」などの他に、「オホーツク北見塩やきそば」「白花豆きたみスイーツ」の開発にも寄与しています。



▲オホーツク圏地域食品加工技術センター

* 六次産業への支援

第一次産業の原材料生産だけに留まらず、市場に出荷できない「はねもの/規格外」の一次産品を、加工食品として製造(二次産業)し、販売や観光農園やレストランの運営(三次産業)まで地域資源を生かしたサービスから高付加価値を得ることで、所得向上や雇用創出へ結ぶ産業形態で、当初は、第一次+第二次+第三次=第六次産業としていたが、第一次が消失すると全てが成り立たなくなることから、掛け算(1×2×3=6)にしている。

オホーツク圏地域食品加工技術センターでは、六次産業へ向けて商品開発の支援やアドバイスなども行っています。

● 林業

北海道一広い142,756haを有する北見市の66%、94,587haが森林です。

北見市では、木のそれぞれの体系にあわせた「森林整備計画」を5年毎に見直し、10年の整備計画策定しながら、広大な森林の保続培養と森林生産増進に努めています。

北見市の森林比率

単位 (ha)

区分	面積	天然林	人口林	無立木地	その他
国有林	58,870	36,557	21,258	82	973
道有林	1,904	635	1,127	2	140
民有林	33,813	11,340	20,343	2,130	—
合計	94,587	48,532	42,728	2,214	1,113

* 上記の資料は、北見市耕地林務課H20年HPを参考

* 四捨五入の関係から、実質面積とは誤差が生じています。